

民「ク」学

MIN-ZOKU-GAKU

鳥取「最古の鬼伝説」の地

平安時代の京都を荒らし回った大江山の鬼や、桃太郎が退治した鬼のモデルともいわれる吉備国(現岡山県から広島県東部)の首領、温羅など、鬼の話は各地にあります。日本最古の鬼伝説のまち」と名乗るのが鳥取県伯耆町だと聞きました。これは確かめてみないといけません。(大阪本社 森恭彦)

JR岡山駅から伯耆線の特急に乗り、温羅がいた岡山県総社市の鬼城山の近くを通過して北へ向かいました。伯耆町を含む鳥取県西部が昔の伯耆国で、吉備の隣国ですから、鬼同士、関係がありそうですね。

伯耆町の伯耆溝口駅に到着寸前、目に飛び込んできたのが川の向こうの丘の上

に金棒を持って腰掛ける青緑色の鬼の銅像です。同駅から車で直行すると、そこは「おにっ子ランド」という町営の公園でした。町に問い合わせると、2005年の合併で伯耆町の一部となった溝口町が、鬼による町づくりを力を入れているとのこと。像は高さ18メートルもあります。



おにっ子ランドでは巨大な鬼の銅像が下界を見下ろしている

丘のふもとの日野川の橋をもう一度渡る時に気が付きました。ここは鬼守橋。たもとの4か所に小ぶりの鬼の像が設置されています。さらに町内で、鬼のトイ

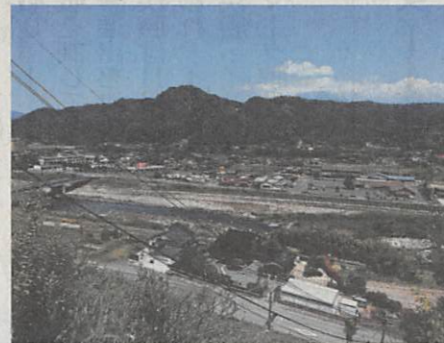
米子道溝口インターチェンジの鬼のトイレ(鳥取県伯耆町で)



レや鬼の電話ボックスまで見つけました。

ウェブサイト「米子(西伯耆)・山陰の古代史」で鬼の伝承を紹介している鳥取県米子市の歯科医師、八尾正己さん(61)に連絡を取りました。

「門外漢の素人が作成していますから」と謙遜する八尾さんですが、郷土伯耆の自然、考古・文献資料から伝承に至るまで、網羅的に調べたこのサイトの情報量



鬼が居座っていたという鬼住山(中央奥)

には目を見張ります。

伯耆の鬼は第7代孝霊天皇の時代に、天皇の命令によって退治されたのだそうです。今、伯耆溝口駅の東に見えている鬼住山に大牛蟹と乙牛蟹という鬼の兄弟が住みつき、村人を困らせていると聞いた天皇は、息子の鸞王を総大将にして攻めさせました。何とか鬼は退治できたのですが、鸞王も戦死。その場所に村人は楽楽福神社を設けたそうです。

元は「砂鉄吹く」といったそうで、伯耆町宮原にその神社は今もあります。

八尾さんは「鉄に関係する神社がこの地方には複数あり、それぞれの社伝に孝霊天皇や鬼や牛鬼に関連した伝承があるようです。他県でも鬼の伝承があるところはほとんどが産鉄地ですよ」と教えてくれました。

ところで古事記、日本書紀には孝霊天皇の事跡が何も書かれていません。伯耆に来たという話もない。しかし、吉備で温羅を討ったのも孝霊天皇の子で、吉備津彦命でした。遠い昔、孝霊天皇の時代に伯耆や吉備が征服されたという事実の反映なのかもしれませんね。



孝霊天皇とその一族をまつた楽楽福神社